

# 成費額など決まる

## ◆ 子ども医療費の助成費予算額決まる

8月診療分から中学生の通院に係る自己負担額の3分の2を助成するため、扶助費2702万3千円申請者への通知等の郵便料やシステム改修委託料として、211万円の予算額2913万3千円が決まりました。

**Q** 医療費の試算は。

**A** 平成28年度決算ベースで小学生一人当たりの通院費をもとに、8月から翌年3月診療分までの8カ月分、中学生1900人を想定し、決めた。

**Q** 風邪やインフルエンザの影響も考慮しているか。

**A** 医療費を試算するにあたりインフルエンザ等の流行も要因になり、大変読みづらい。

**Q** 子ども医療の助成拡大に至った経緯は。

**A** 昨年、議員の会派から子ども医療費助成の見直しについての要望書を

直しについての要望書を受け取った。市として、子育て家族の負担軽減を図ることを最優先に事業の継続性を見据え検討し、3月議会に子ども医療費

**Q** 助成の申請はどうするのか。

**A** 申請は、医療機関で発行された領収書を持参し、市役所の保険年金課のほか各支所で申請受け付けの体制を取る。

**Q** 中学生の通院医療費の軽減は、小学生と比べ

的な負担の軽減を少しでも図るための事業ということを理解してほしい。

**Q** 半田市や常滑市のように医療機関で1割分を負担することはできないか。

**A** 両市は、総合病院などの、大きな医療機関を持っている。また、各医療機関の理解、協力も必要となってくる。愛西市では償還払いとした。

**Q** 現物給付はなぜできないか。

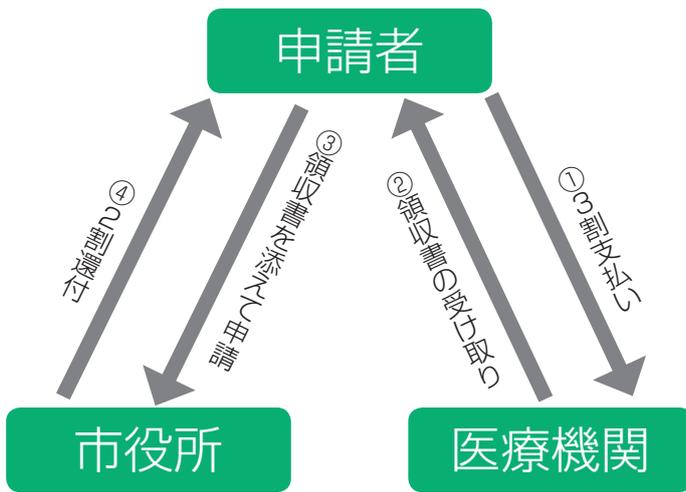
**A** 医師会、歯科医師会、薬剤師会、接骨院などの医療機関との調整が必要。

**Q** 償還払いの手続きも

**A** 保護者に周知徹底をしたい。

**Q** 償還払いの自治体の実績は。

**A** 海部管内にあま市と愛西市の2つしかない。実際にどれだけの件数が出てくるかは、全国的に調べないとわからない。



### 討論

#### 賛成

子ども医療費助成の事業実施に対しては、「評価」がつきもの。外科・内科・歯科等を受診する率や、持病などで一人の生徒が年に何度も病院に通う事例など、データ集約により、今後の方針がみえてくる。どのようなシステム改修をするかがポイント。傾向や課題を明らかにした評価データの公表を期待し賛成する。

#### 反対

小・中学校の施設改修事業の減額分は、教室のエアコン設置や、今まで教育予算で廃止や減額されたキャンプ補助金、放課後子ども教室などの事業に回すべきだ。また、生活保護基準改正は、母子家庭が影響を受けるのは明らかで反対する。